



地方創生について熱い想いを語る大石先生

金山町政策講演会 大石先生が熱弁ふるう

11月29日、役場町民ホールにおいて金山町政策講演会が行われ、町政策顧問である大石利雄先生が、50名を超す参加者の前で熱弁をふるいました。

演題は『地方創生と地方行財政の課題』。「経済成長を遂げることで日本は成長してきた。しかし時代は変わった。物質的ではなく、精神的な豊かさを求める人々が増えている」と、『ひと・もの・かね』が大都市に集中している現状に疑問を投げかけるとともに、地方の活性化を図るという地方創生の本質について、話されました。

大石先生との委嘱期間は平成31年9月までの3年間。今後も多くの意見交換の場を設けていく予定です。

科学実験で学ぼう 『防災エンスショー』

12月12日、金山中体育館を会場に『防災エンスショー 楽しく科学・伝える防災』が開催され、金山中学生と町内小学校5・6年生が参加しました。

講師の阿部清人先生は仙台市在住。東日本大震災で被災した経験を振り返りながら、様々な科学実験を披露してくれました。中でも、手回し発電機実験には会場の皆さんが注目。実験に参加した丹沢晴くん（内町）は「普段は電気の力で動くモーターを人の力で動かせば電気が作れる。学んだことは災害時にも活かそう」と話していました。知識を習得し身を守りながらともに助け合う一、『自助・共助・公助』の重要性を再認識しました。



身近にあるもので液状化現象を再現する阿部清人先生



大勢の園児や保護者の前で行われた餅まき

めごたま新園舎上棟式 無事の完成を祈願

11月27日、荒屋地区に建設中の認定こども園めごたま新園舎において、上棟式が行われました。

式には園児や保護者、大工職人の皆さんなど100名を超す関係者が出席。棟上げまでが終了したことに感謝するとともに、無事に園舎が完成することを祈願し、餅まきが行われました。また、園児たちから職人の皆さんへ手作りのメダルがプレゼント。思いもよらないサプライズと「残りの工事も頑張ってください」という園児たちの元気な言葉に、皆さん照れ笑いを浮かべていました。

新園舎は来年3月の完成予定。現在の年中園児の皆さんから入園する予定です。

金山杉をモチーフ イラスト展開催中

1月29日（日）まで、マルコの蔵東蔵2階を会場に、『版画絵本イラスト展～金山杉の杉太郎～』を開催中です。

これは、山形大地域教育文化学部八木ゼミの皆さんが、まちづくりや文化振興をテーマに、町と連携して行っているアートプロジェクトの一貫。今年は金山杉をモチーフとした『杉太郎』が主人公の絵本を作成し、町内認定こども園などにも寄贈していただいています。イラスト展では、完成した絵本も読むことができます。

杉太郎の絵本が町内の皆さんに親しまれ、金山杉の良さを知るきっかけとなることを願います。



『金山杉の杉太郎』を読み聞かせする制作者の学生たち

まちのわだい

大堰の鯉たち 来春まで『引越し』

11月25日、これから迎える厳しい冬に備え、大堰の鯉の越冬作業を行いました。大堰ならびに大堰公園の鯉は約200尾。町内業者と町担当者あわせて5人がかりで、1時間30分の格闘の末、鯉たちの『引越し』を完了させました。鯉は約5ヵ月間、仮住まいである八幡公園で静かに冬を過ごします。4月下旬にまた元気な姿で大堰に戻ってきてくれることを願います。



引き上げられる大堰の鯉たち

新南金山校生徒 まちづくりを提案

12月20日、『新南高金山校版：金山町フォーラム～町づくりを語る会～』が行われ、全校生徒が参加し、町の施策など、まちづくりについて学習を深めました。

生徒たちは15班に分かれ、町の現状や課題を踏まえた『まちづくり提案書』を作成。代表の3班からは「町のPRにSNS活用してはどうか」や「中心部だけでなく、町全体を巻き込んだ金山まつりを開催してはどうか」といった提案がなされました。「町づくりとは、課題を見つけて解決に向けて一生懸命努力すること。町の課題を網羅した素晴らしい提案に感謝したい」と最後に鈴木町長が講評を述べました。



悩みながら『まちづくり提案書』を作成する生徒たち

身をもって理解 金小児童が認知症講座

12月7日、金山小学校で同校6年生の児童を対象に、認知症サポーター講座が開講されました。

認知症をはじめとする高齢者が抱える問題は、子ども達にとっても身近で重要な問題。児童たちに、認知症について正しく知ってほしいという思いから、町地域包括支援センターが企画し、町内の各小学校で行っています。

この日は福祉用具体験研修も同時に開催。目隠しをしての車いす体験に、児童は「思ったより怖かった。声がけしてもらって安心できた」と話していました。その他、ベッド上での動作体験などを通し、高齢者の生活について、身をもって理解していました。



車いすほか「擬似高齢者」を体験する児童たち



交通安全の基本をバーチャルから学ぶ参加者

きららクラブ金山 交通安全推進研修会

12月8日、きららクラブ金山（金山町老人クラブ連合会）主催の高齢者交通安全推進研修会が開催され、町内の各老人クラブから約80名が出席しました。

高齢者事故防止アドバイザーの大場英樹氏が講演。「身体能力の衰えは自分では気がつきにくいもの」というアドバイスのもと、出席者はバーチャル道路横断を体験しました。「左右をしっかりと確認することの大切さを再確認した」と話すのは、霧を想定した状況で体験した島森美奈子さん（宮）。参加された皆さんは、自分が事故に遭わないためには基本が大切だと改めて実感されていました。